



参考資料

環境のあゆみ

1955  日本住宅公団

1975  宅地開発公団

1981  住宅・都市整備公団

1999  都市基盤整備公団

1974  地域振興整備公団

1955年～1974年

1955-

280万戸の住宅不足を解消するため日本住宅公団が設立され、DK等、新しい時代の住生活を提案してきました。



左 | 宅地分譲始まる(多摩平地区:東京都日野市)
中 | 金岡団地(大阪府)昭和30年代のDK風景
右 | 昭和30年代に使用されていた内金式浴槽(左上)とBF風呂釜

1965-

高度経済成長による大都市への人口集中に対応すべく、ニュータウン開発をはじめ、大量の住宅供給を支える技術開発を推進してきました。



▼環境への取組み

1975年～2003年

1975-

石油ショックによる省エネルギーの推進や、多様化する住まい方に応える質の高い居住環境の整備等、量から質への転換に対応してきました。



左 | ごみ空気輸送設備と地域暖房給湯設備完成(森ノ宮第二団地:大阪府大阪市)
右 | 日本初、中水道施設で給水開始(芝山団地:千葉県船橋市) 囲み写真:イメージポスター第1号

1985-

バブル経済の崩壊という社会情勢の変化と並行して、住宅主体の開発から、様々な都市施設を備えた複合的なまちづくりへと重点を移行してきました。



厚木・森の里地区竣工(神奈川県厚木市)

1995-

阪神・淡路大震災の復興への支援、密集市街地の改善や工場跡地の土地利用転換等、都市基盤の再整備を推進してきました。



左 | 阪神・淡路大震災発生、震災復興事業本部発足
右 | 八王子みなみ野自然塾の本格的活動開始(東京都八王子市)

脱炭素社会

- 設計基準の確立
- 生産工法の開発
- 新しい居住環境の整備
 - ・日照を重視した住棟の南面平行配置(昭和30年代)

- エネルギーの効率的利用
 - ・住棟太陽熱利用給湯システム(1984/鳴海第3)
 - ・コージェネレーションシステムの導入(1990/パレール川崎)
 - ・次世代省エネルギー基準の導入(2003)
 - ・ゴミ焼却排熱利用の地域冷暖房(1976/森之宮)

気候変動
適応社会

- 災害に強いまちづくり
 - ・浸透工法の採用(1965/国立富士見台)
 - ・洪水時だけ水がたまる低床花壇(1966/あやめ台団地)

- 土地の有効利用と安全性の確保
 - ・緩傾斜堤防の計画策定(1984/大川端リバーシティ21)

自然共生
社会

- 樹木の利活用
 - ・自然地形と現況林を保存した団地整備(1959/御影団地)
- 都市の骨格としての環境整備
 - ・緑の保全と利用を結合したグリーンマトリックス計画(1973/港北ニュータウン)

- 生物生息空間の保護
 - ・生物保護区を指定した公園整備(1982/港北ニュータウン 鴨池公園)
- 環境共生型まちづくり
 - ・地域資源を活かした環境共生型まちづくり(2003/坪井)

循環型社会

- 基盤設備の整備・広域化
 - ・污水处理施設開発・建設(1956)
 - ・広域専用水道システムとの連携化(昭和40年代)

- 資源の有効活用
 - ・コンクリート塊の再利用(1992/相模大野)
 - ・伐採樹木によるチップ舗装(1992/飯能南台)
 - ・KSI住宅第一号入居開始(2002/シティコート目黒)

環境意識の
向上・
コミュニケーション

- 共同施設の整備・充実
 - ・共同菜園(1971/小川団地)
- 市民活動協働
 - ・自然林復元の市民運動「どんぐり作戦」(1972/高蔵寺ニュータウン)

- コミュニティ形成の促進
 - ・緑のワークショップ(1996/武蔵野緑町パークタウン)
- 市民協働
 - ・市民参加型公園計画(1982/港北ニュータウン)
 - ・自然保護団体との協働によるカタクリ移植(1985/多摩ニュータウン 長池公園)
- まちや住まいの安全・安心
 - ・震災復興まちづくり(1995)

URは、昭和30年代から現在までの70年以上にわたり、都市環境・居住環境の整備において、先導的な特色ある環境への取組みを推進してきました。ここでは、各時代の環境への取組みについてテーマごとに整理してご紹介します。

2004



独立行政法人
都市再生機構
(UR都市機構)

URミッション

人が輝く都市をめざして、
美しく安全で快適なまちを
プロデュースします。

URスピリット

CS（お客様満足）を第一に、新たな価値を創造します。
創意工夫し、積極果敢にChallenge（挑戦）します。
力を結集し、Speedy（迅速）に行動します。

2006 環境配慮方針策定

2025 環境基本方針改定

2004年～

2005-

政府の掲げる都市再生を推進し、人が輝く都市を目指して、美しく安全で快適なまちをプロデュースしてきました。



左 | 東日本大震災における復旧・復興支援活動開始(写真:宮城県東松島市)
右上 | 「MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト」発足(リバーサイドしろきた団地:大阪府大阪市)
右下 | 越谷レイクタウンまちびらき(埼玉県越谷市)



2015-

都市再生の推進、ミクストコミュニティの実現、大規模災害からの復旧・復興等を推進してきました。



左 | 「うめきた」「みどり」と「イノベーション」の融合拠点の実現(大阪府大阪市)
右上 | 「洋光台団地」UR賃貸住宅を核とした地域活性化(神奈川県横浜市)
右下 | 「豊間・薄磯地区」どんぐりプロジェクト 豊間・薄磯防災緑地植樹祭(福島県いわき市)



■ まちや住まいの省エネルギー

- ・街区全体でCO₂70%削減を義務付けた「低炭素モデル街区」による民間住宅事業者誘導(2010/港北ニュータウン)
- ・UR賃貸住宅の大規模な環境配慮の推進(共用部照明LED化、潜熱回収型給湯器に取替え、緑のカーテンの推進)発表(2010)
- ・機構初のZEB認証を取得した施設建築物が竣工(2023/長岡市大手通坂之上町地区)

■ 災害に強いまちづくり

- ・防災公園「桜の森公園」竣工(2014/三重県鈴鹿市)
- ・大規模雨水貯留槽を整備(2020/渋谷駅地下)

■ 流域の治水対策とまちの一体整備

- ・安全安心まちづくり協議会(2005/流山新市街地)
- ・越谷レイクタウン まちびらき(2008)
- ・川辺のまちづくり開始(2017/大和川左岸(三宝)地区)

■ 環境共生型まちづくり

- ・地域生態系に配慮したシミュレーション技術の開発(2007)

■ 多目的な施設とビオトープ

- ・海のビオトープ(潮入りの池、生態護岸)(2007/みなとみらい21 水際公園)

■ 屋外空間における緑の確保

- ・苗木採集プロジェクト(2014/豊間・薄磯地区)
- ・うめきた2期区域の先行まちびらき(2024)

■ 建設副産物の再利用

- ・再生コンクリートを利用した集会所(2005/牟礼団地)

■ 既存住宅ストックのリニューアル

- ・洛西ニュータウン団地リノベーションプロジェクト(2014/洛西竹の里団地他)

■ 資源の有効活用

- ・地方都市再生に資する既存建物のリノベーション(2019/福山駅前地区)

■ コミュニティ形成の促進

- ・市民緑地制度を活用した街山づくり(2005/おゆみ野)
- ・全国団地景観サミット作品展(2013)

■ 民間事業者等との連携

- ・エリアマネジメント活動拠点「ひばりテラス」の完成(2015/ひばりが丘団地)